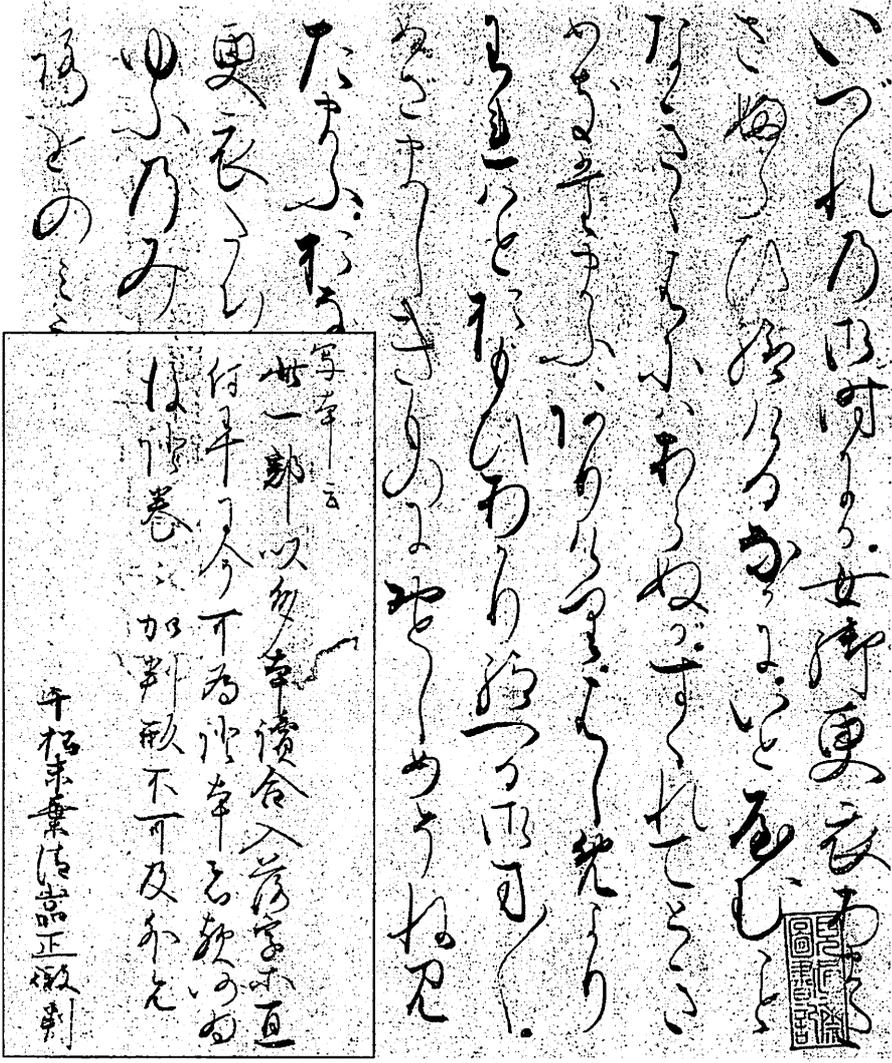


国文学研究資料館報

第59号

平成14年9月

編集発行者 国文学研究資料館
 東京都品川区豊町一丁目一六〇
 郵便番号 一四二一八五八五
 電話 〇三三七八五〇七三
 FAX 〇三三七八五〇七五
 URL <http://www.nijl.ac.jp/>
 印刷 株式会社三協社



『源氏物語』（正徹本）桐壺巻冒頭（右）と正徹の奥書（左下）（10頁参照）

目次

「チェスター・ピーター・ライブラリ」絵巻絵本 解題目録について	中野真麻理……………2	新収資料紹介49 源氏物語(正徹本)	伊藤鉄也……………10
マリオ・マレガ文庫所蔵日本古典籍の調査と整理	山下則子……………4	文献資料部事業報告	谷川恵一……………11
渡辺家資料について	宮崎修多……………6	研究情報部事業報告	松村雄二……………13
三十年という時間	松野陽……………7	整理閲覧部事業報告	鈴木 淳……………15
創立30周年記念行事予告	……………8	文庫紹介37 京都府立総合資料館	久保木秀夫……………16
記念展示・講演会		彙報	……………17
連続講演「百人一首」		評議員等名簿	……………19
国際日本文学研究集会		人事異動	……………22
シンポジウム コンピュータ国文学		利用者へのお知らせ	……………23
		秋・冬季学会開催一覧	……………24

国文学研究資料館 チェスター・ピーティー・ライブラリー共編

『チェスター・ピーティー・ライブラリー絵巻絵本解題目録』について

中野 真麻理

不動のものとなったと言えよう。

今回、当館とチェスター・ピーティー・ライブラリー共編に成る『チェスター・ピーティー・ライブラリー絵巻絵本解題目録』(二〇〇二年三月、勉誠出版)は、日本関係コレクションのうち、絵巻・絵本を主体とする古典籍全二六三点の解題目録である。解題篇・図録

篇の二分冊から成り、「絵巻・絵本」部に写本二九点、「絵入り版本」部に版本一〇六点を収録する。

方々に執筆頂き、諸伝本間に於けるチェスター・ピーティー本の位置付け、作品成立の文化的背景のほか、特に美術的視野に立つての見解が盛り込まれているところに特色がある。また、全作品について、研究上重要と考えられる箇所を図録篇に収録、日英両文のキヤプションを添えている。

国文学研究資料館による初回のライブラリー訪問は、一九九一年三月であった。ライブラリーが、予

チェスター・ピーティー・ライブラリーのコレクションの旧蔵者であり、アイルランド系アメリカ人の鉱山王としても知られるアルフレッド・チェスター・ピーティー卿が初めて日本の土を踏んだのは、一九一七年春であった。以後、卿は四か月に亘って京都や奈良、大阪、横浜などの名所を訪ね、古美術商めぐりを楽しみ、数多の奈良絵本、絵巻、風俗画の類を購入した。一九五〇年代に入り、卿はダブリンに移ったが、版本類の蒐書はこの頃から始められたという。卿の購入記録は、アイルランド共和国ダブリン市にあるチェスター・ピーティー・ライブラリーに、その貴重なコレクションの数々と併せ、大切に保管されている。チェスター・ピーティー卿の日本関係コレクションが世に知られ

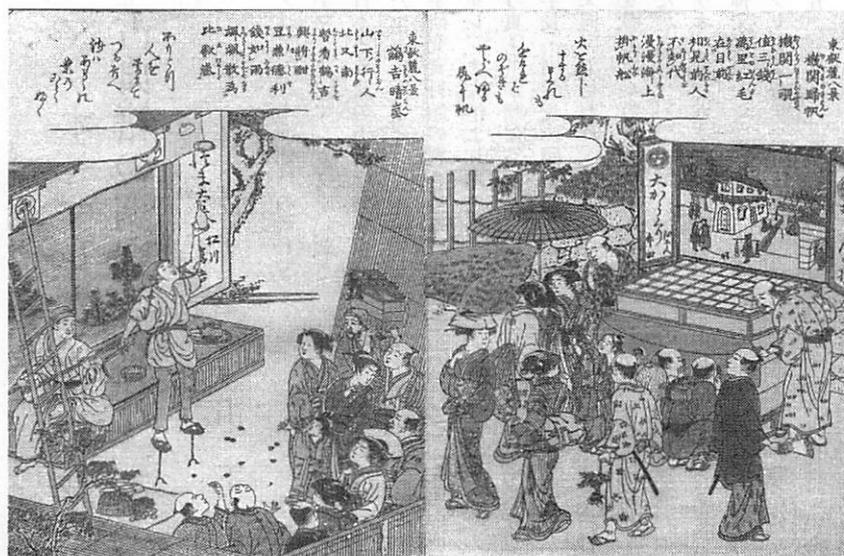
るようになったのは、約四十年前まで遡る。以来、「チェスター・ピーティー・ライブラリー蔵日本絵本及絵本目録」(一九七九年、弘文社)、秘蔵美術大観5「チェスター・ピーティー・ライブラリー」(一九九三年、講談社)等々が刊行され、豪華な大型絵巻や華麗な細密画、他に伝本の存在を聞かない版本など、稀覯本の数々が紹介されるに至った。昭和六十三年にはサントリー美術館・神戸市立博物館・名古屋市博物館で展示が行われ(『日本の物語絵 アイルランド・チェスター・ピーティー・コレクション』)、「長恨歌絵巻」修復のための里帰り展示なども実現した(『日本美術修復計画 甦る在外名画展』、一九九五年、東京国立博物館)。チェスター・ピーティー・ライブラリーの名声は

写本部には「写本絵巻・絵本総説」「各論総説」(竹取物語・源氏物語・文正草子・歌仙・八景の総説)に続き、一作品ごとの解題を収める。各作品は、「物語絵」「御伽草子絵」「芸能絵」「説話絵」「伝記絵」「中国故事絵」「軍記絵」「歌仙絵 和歌絵」「名所絵」「祭礼絵 風俗絵」「記録絵 産業絵」「動植物絵」「その他」に分類して掲出した。絵入り版本については、「版本総説」に続き、「画譜類」「絵本類」「狂歌絵本・絵俳書等」「その他」に分類した。また、これらに含まれない「経典・仏画」を版本の後に一括した。

各作品の解説は、文学のみならず、広く美術・歴史の研究者の方々に執筆頂き、諸伝本間に於けるチェスター・ピーティー本の位置付け、作品成立の文化的背景のほか、特に美術的視野に立つての見解が盛り込まれているところに特色がある。また、全作品について、研究上重要と考えられる箇所を図録篇に収録、日英両文のキヤプションを添えている。

ず、広く美術・歴史の研究者の

美術的観点を重視して作成されたものである。一九九五年初夏、美



図録篇カラー口絵より「東叡麓八景」

術・歴史の研究者の方々にも参加
頂いて「絵本の会」が発足し、毎月、
或いは隔月で研究会が行われた。
一方、しばしば解題目録の編集
方針等も話し合われ、編集委員会
が組織された。その間、潮田氏の
後任としてクレア・ポラード氏が

就任され、変わらぬ御高配を賜る
ことができたのは、大変有難いこ
とであった。
コレクションは質量共に高く、
さらに内外の研究者の方々に御協
力をお願いし、御快諾頂いた。二
〇〇一年二月末には最終確認の調

査を実施、多くの館員の方々が快
く対応して下さいました。この折、先
述の購入記録の中から、いくつか
の記事を拝見させて頂いた。例え
ば、鉦山王チエスター・ピーティ
ー卿が『佐渡金山絵巻』など六点
の鉦山・貨幣鑄造資料をコレクシ
ョンに加えていることは興味深い
が、これらは卿とほぼ同時代に生
きた鉦物学者、所謂明治のお雇
外国人 William Gowland 博士の旧
蔵書で、ロンドンの著名なデー
ラーを通じて卿が購入したもので
あった。今もその書肆は健在とい
う（調査研究報告）22号、二〇
〇一年）。また、絵巻に書き入れ
られた鉛筆書の英文が卿の筆跡か
どうかなど、我々では判断不可
能な難問も、ライブラリーの学芸員
の先生方が解決して下さいました。
二〇〇一年十二月、図録篇の写
真撮影のためライブラリーを再訪
卿の購入記録の多くを一見させて
頂いた。やや色褪せた都ホテルの
メモ用紙の走り書きからは、善本
を購入し得た卿の歓喜が伝わって
くるようである（本書「写本絵
巻・絵本総説」に図版を掲載）。
蒐書に助力した人々と交わした膨
大な書簡には、コレクション形成

に一切の妥協を許さなかった卿の
氣迫が感じられた（本書「版本総
説」に一九五六年一月十九日付ジ
ヤック・ヒリアー宛チエスター・
ピーティアー卿書簡を掲載）。
こうして今に伝えられる海彼の
一大コレクションについて、「文
化的価値を明らかにし、活用の道
筋を付けること」、それこそが「コ
レクションに生命を吹き込むこ
と」であるとの志を持ち、本書の
編集作業は進められた（編集後記）。

二〇〇二年三月、計五十六名の
執筆者による「チエスター・ピー
ティアー・ライブラリー絵巻絵本解
題目録」刊行に漕ぎ着けた。長き
に亘り、御協力賜った執筆者の
方々、ポラード氏、潮田氏、マイ
ケル・ライアン館長に、改めて深
謝申し上げたいと思う。

（A4版 全二冊 函入上装）解
題篇四〇三頁 図録篇三二二頁
カラー口絵十六頁 編集委員 浅
野秀剛 小峯和明 黒田日出男
中野真麻理 落合博志 榊原悟
鈴木淳 徳田和夫 編集協力者
クレア・ポラード 潮田淑子（以
上、敬称略）。二〇〇二年三月
勉誠出版

（文献資料部助手）

マリオ・マレガ文庫所蔵日本 古典籍の調査と整理

山下 則子

イタリア、ローマ郊外のサレジオ

オ大学マリオ・マレガ文庫に蔵される日本古典籍の調査と整理が完了した平成十四年二月二十二日、国文学研究資料館の調査員達に対し、サレジオ大学より感謝のメダル(写真①)が贈呈された。贈呈式は学長・副学長・図書館長のピカ神父同席で行われ、皆でシャンパンを飲むという和やかなものであった。

マリオ・マレガ文庫の内容とマレガ神父については、既に「文庫のドラマをよむ」(「文学」二〇〇一年五、六月号・岩波書店)で、ロバート・キャンベル氏が委曲をつくして述べられた。要は、伊沢「古事記」等の著者であり、昭和四、四十九年に在日したマレガ神父が、ご自身の日本学研究のために蒐集した書籍の文庫である。ここでは普段陽の目を見ることの少ない、調査の実態の報告を行いた

い。

そもそも私がマリオ・マレガ文庫に出会ったのは、平成十年度のサレジオ大学三回目の来訪の時であった。この文庫の所在を国文学研究資料館が知ったのは、前文献資料部第四室助教ロバート・キャンベル氏が、平成八年度(平成九年二月)の調査旅行の折、ヴァチカン図書館調査中に、当時サレジオ大学図書館長だったオリヴァーレス神父から話を伺い、予備調査に出かけたという経緯であったと聞く。その時には、マレガ神父亡き後放置されていた書籍が、活字本も和本も混在しているといった、全くの未整理状態であったらしい。それを二回日来訪の平成九年度調査で、書型ごとに山を作り、同種類の端本を系統だてたり、泣き別れ状態であった作品を統合したりして、一作品ずつに通し番号の短冊を挟み、書庫に戻した、と

いうことであった。

三回目の平成十年年度調査は、中央大学鈴木俊幸教授のご協力を得て、草双紙が多いマレガ文庫の書誌調査を、文字通り朝から晩まで行った。イタリアで英語が通じるのは、ごく一部である。我々はローマ郊外のサレジオ大学に通うためのタクシー手配から苦労した。ローマは東京よりも暖かいはずであるが、この時はイタリアに寒波が居座り、寒さとの戦いであった。暖房設備もなく、時々は扉が開け放しになる図書館廊下に机を並べ、震えながらの書誌取りであった。貴重なホカロンを分け合って寒さをしのいだ。限られた日数で終えようと、連日六時過ぎまで図書館内に詰め、その甲斐あって調査はほぼ終了した(写真②)。あとは帙に入った書籍にラベルを貼るだけだと、軽く考えたのを覚えている。

四回目の来訪は平成十二年度になった。キャンベル助教の転出に伴い、この時から責任担当は山下へと移った。ピカ先生が文庫の半分の書籍の帙が出来たこと、大卒学広報誌に国文学研究資料館の調査に関する記事を載せたら、他からもマレガ神父の資料を寄贈されたことなどを、知らせて下さった。二年ぶりの来訪で、書庫の状況が把握できなかったので、事前協議のすえ、何種類かの短冊の束、請求番号ラベル等を用意した。出発前日になり、不測の事態のためキャンベル氏は不参加となった。日本語が全く通じない調査先に不安を覚えた我々は、急遽ナポリ大学のシルヴィオ・ヴィータ教授に紹介していただき、同大学のロベータ・ストリッポリ助教に通訳をお願いすることとした。ピカ神父は玄関で待つていて下さった。ロベルト氏のお陰で、寡黙かと思われていたピカ神父が、実は非常に気さくな方であることがわかった。イタリア文具職人が作った帙は、日本風に紺色無地布張りで、大変立派なものであったのだが、残念ながら請求番号等の判別のための記号がなかった。となると、帙に書籍を装填するには、全ての書籍を全ての帙に合わせて適するものを捜すという、気の遠くなる作業を行わねばならなかった。この過酷な労働を、谷川恵一教授・和田恭幸助手と共にに行い、出来上がったものにラベルを貼付した。黙々と適する帙を捜す我々をご覧にな

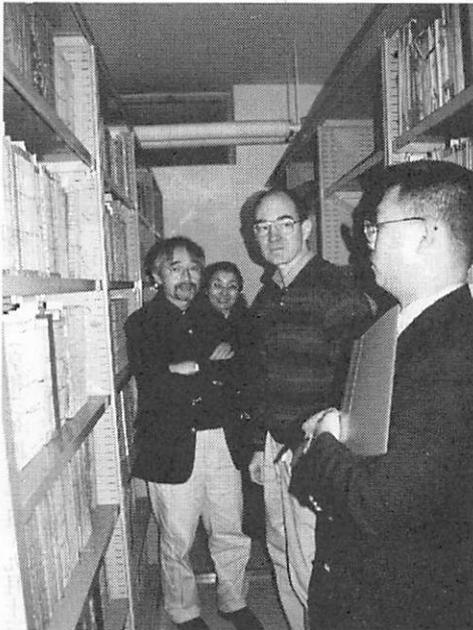
つて、ピカ神父は今までも増して、温かい視線を向けて下さるようになった。この、あくまでもマレガ文庫利用者のために行っている基本的労働によって、我々は現地の方々の信頼を得ることができた。ピカ神父は、来年までには残りの書籍の帙を作っておくので、是非来年も資料整理を続行してほしい、と強く希望された。書誌的事項や請求番号が記載される目録との照合が含まれるこの作業は、やはり我々がやるしかない、と改めて実感した。

五回目の来訪は、平成十三年十月であった。この年から科学研究費は不採択であり、費用の捻出に館長をはじめいろいろな方々に苦心していただいた。平成十四年春には、新図書館へマレガ文庫を移すと聞いていたので、その前に整理し終えたかった。今回はヴェネツィア大学の大学院生であったラウラ・モレッティ氏と、ローマ日本文化研究所の学芸員セルジオ・レヴィ氏が協力して下さった。ローマに夜着き、翌日の朝早くから、帰国の飛行機が出る三時間前まで、帙への装填と目録の確認を行った。しかし、事前に四回連絡を取って

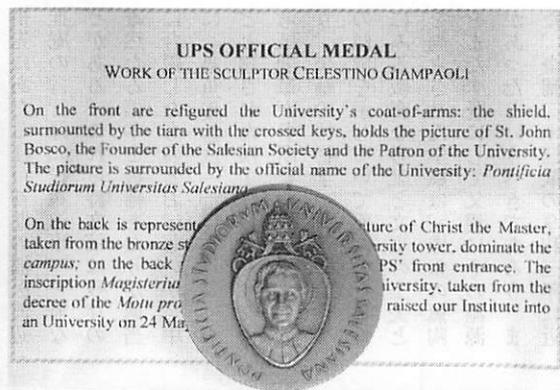
いたにも関わらず、最も小さい中本型即ち草双紙類の帙が出来ていなかったのである。イタリア在住のロベルタ氏達に残りの整理をお願いしようかとの意見もあったが、私が私費で来るしかないと感じた。幸い再び館長に取りはからせていただくこととなり、平成十四年二月、山下単独での六回目の来訪となった。この時もラウラ氏・ロベルタ氏の協力を仰いだ。文庫の中で草双紙は最も多くかなり不安を覚えたが、この時はご多忙なピカ神父ご自身が徹夜して、帙を請求番号順に並べておいて下さった。ラウラ氏達の奮迅の努力の甲斐あって、全ての帙装填と、洋装本を含む近代の本や浮世絵の整理も完了した(写真③)。その翌日、ピカ神父がお礼にと連れて行っ下されたのは、マレガ文庫との縁を取り持ったヴァチカン図書館であった。

こうしてマレガ文庫の調査と整理は、多くの方々厚意と奉仕に支えられて完了した。この約八〇〇点の日本古典籍の目録は、近く『調査研究報告』に英訳付きで発表の予定である。

(文献資料部助教授)



写真②



写真①



写真③

渡辺家資料について

宮崎 修多

本資料群は、幕末期の儒者渡辺魯輔家の旧蔵にかかり、その四代後の孫にあたる渡辺元氏（川崎市在住）によって本年本館に寄贈された。江戸詰の膳所藩医の息子として生まれた渡辺魯輔（名魯、字魯輔、称魯助、号樵山。明治六年没五十三歳）は、幼年に父を失つてから弟の璞輔とともに、松崎嫌堂の羽沢山荘で養子同然に育てられ、嫌堂没後も三年喪に服して山荘を守った校勘学者である。のち紀州に仕え参政にまで昇格したが、終生經書研究と作詩文とを怠らず、珍籍の校訂影印に務めた。特に羽沢石経山房刻影宋本「爾雅」（天保十五年序刊）の校訂がその代表的な業として知られる。因みに一歳下の弟璞輔は、「七経孟子考文」の著者山井鼎の出た山井家に入籍、西条藩儒となつて、これも校勘学者として兄とともに業績をあげた。

資料総数およそ三百余点は、概ね魯輔とその家族の稿本、書翰、文書、書画軸といった机辺に蔵されてきたもので占められ、いわゆ

る旧蔵典籍はほとんどない。全体の内訳を概数で示せば、書冊体の稿本雑纂が四十余点、バラの詩稿、歌稿類が七十点、書翰が五十余点、文書が百十余点、書画軸物が二十余点となつている。

中でも書翰五十余点には、家蔵のものゝ巻子に仕立てた一点（十卷百五通）を含むので、総数にすれば百六十通を越える。魯輔宛と父の奎輔宛が最も多いが、師嫌堂やその周辺にあつた名家書翰もかなり残つており、これは晩年の松崎嫌堂門における秘書のごとき魯輔の位置を示すとともに、「嫌堂日曆」とは別の角度から羽沢山荘の動静を物語る資料ともいえるであろう。惜しむらくは、家蔵書翰巻はもと十二巻で、その第一巻を欠いており、それは戦前もかなり前からの欠落であつた由、ご当主の談であつた。いずれにせよこれらは本資料中の白眉といつてよい。池田冠山、鳥居耀蔵、林述斎ら大名高官をはじめとして、珍しいところでは小島宝素、倉成龍渚

らの数通も目についた。また嫌堂の渡辺家への書信も散見する。

稿本類は、魯輔のもの外では、父渡辺奎輔（名昶、字奎輔、号衛園、初号忠軒・旭山。天保三年没五十二歳）の雜著が珍とすべきものと思われる。墓表文（魯輔撰文）にあがる奎輔の著作「日本医史」「医具小志」「淡海先賢伝」などにあたるものは見られなかつたが、利根川遊記と詩をまとめた「刀禰游草」一冊、詩文雜綴は「忠軒記聞」一冊ほか数冊、奎輔の隨筆雜著も混じる「忠軒君雜書」一冊、祖先にあたる江戸初期の儒医渡辺推庵の言行録「推庵逸事」一冊などがある。これら詩文稿は残存の雜然たる稿本を魯輔あたりが適当に合綴したものとおほしいが、中に「蟲魚樓詩話」「己任贅筆」などと題された漢字片仮名混り文の考証隨筆が各所に綴じ込まれており、奎輔の博物学・医学と詩学への傾倒を示して面白。魯輔にみる緻密な考証と文事の工夫とを両立させた学風は、嫌堂の薰陶をまたず既にして父親にその淵源があつたといふべきであろう。また、奎輔二十三歳の享和三年に近江から山陽道を伝わつて九州に遊

学した際の日記「留肥日札」一冊（享和三年四月一日〜九月十三日）と「西溟日札」一冊（同年八月一日〜十二月十九日）も見るべき資料である。「留肥日札」は熊本滞在日記で、主に斎藤芝山の周旋によつて当地の儒者たちと交流するさまが見える。「西溟日札」は熊本から日向、豊後、豊前と巡つた際の日記で、各地の儒者、藩校を訪ね歩く間に、各地の産物、地勢なども書き留めることも忘れず、各条は短いながらも生彩に富んだ記述が楽しめる。なお九州関係では他に、奎輔の亀井南冥や晏榮ら博多文人との唱和も残る。

そのほか、渡辺家の女性たちによる多くの歌稿や歌書抜書、嫌堂葬儀費用の目録、魯輔死後の建碑をめぐつて石工広群鶴と交わした文書、明治九年の活版入費文書等々、眺めているだけで、儒家の静かな日常に起こる人々のさまざまなが垣根越しに聞こえてくるような資料群である。今井源衛先生のご徳澤をうけ、数年前本資料がまだ渡辺家に蔵されていたときに調査した縁によつて、館外者ながら筆を執つた。

（成城大学助教授）

三十年という時間

松野陽一

国文学研究資料館の開館は昭和四十七（一九七二）年五月。それから三十年の歳月が流れた。この間の社会の変動は大きく、日本文学研究の枠組みもまた、多くの分野で変化を見た。

当館は、研究情報の収集・発信に関して、人文・社会系の諸分野を通じて、最も詳細・緻密な仕事をしてきた自負があり、当然、研究の動向にも敏感に対応しているつもりであるが、一方、基本事業である文献資料の調査・収集では、一貫して地道な方法で集積・整理をし、公開閲覧を続けてきた。一年に一万点、三十年で三十万点の日本古書籍の書誌カードを集積し得たのは、九千人に上る日本文学研究者のコミュニティの全面的で持続的な協力による成果であるといつてよい。九千人という数字は、平成十二年度の「国文学年鑑」の論文執筆者索引によるものであるが、本館は大学共同利用機

関、コミュニティが共同利用する資料の大半を、コミュニティ自身で共同調査・製作して集積したという点に特色があるわけである。

調査員制度によつて、全国の大学の、日本文学担当の現任教員に調査員を委嘱し、各地の所蔵者の下に赴いて、原本一点一点の書誌カードを作成する、その今年までの持続の結果が、前記三十万点となったわけであり、そのうちの十七万点がマイクロフィルム、紙焼写真として利用に供されているのである。利用は無論、コミュニティに閉ざされているわけではない。広く外国を含んだ諸分野の研究者、一般市民にも活用されている。意志の持続は今後も力強く保持され、源氏物語のような著名な古典作品ばかりでなく、日本人の表現意志の刻みこまれた片々たる資料に至る総体が、人類全体の文化資源として利用に供されるための努力が続けられて行くであろう。

この七月末、古典文庫の配本があった際、その連絡報に、次回九月が最終刊行になる由が記されていた。吉田幸一氏は、戦後、未刊行の国文学資料の学術的に確実な本文を、廉価に学界に提供することを志され、六十年間にわたつて六七〇冊を単独で刊行し続けられた。最終巻で十返舎一九集を担当される中山右尚氏の如き老練な研究者から、まだスタート台に立つたばかりの大学院生まで、内容が確かで、紹介の価値があると判断されれば、果敢に幅広く採り入れられた。商業出版社ではとても扱って貰えぬような資料翻刻に「場」を与えて下さったことで、どれ程研究者が鼓舞されたことか。J・ビジョー、小杉恵子氏のバリ図書館本の紹介なども古典文庫にして初めて為し得た快挙といえよう。

吉田氏の高い見識と企画力、優れた運営能力によつて学界に提供されたこの大宝典の活用は後進の研究者の肩に掛かっているが、今は終刊に際し吉田氏への感謝の念を記しておきたい。

国文学研究資料館の学ぶべきは、良質の研究情報・資料を提供し続ける意志の持続であると思う。三

十年はまだ、入口に立った時間だと言わなければならない。

折しも、内外共に変化の徴が見え始めたところである。館内の技術面では、三年前からスタートした近代資料の調査・収集が、パソコン、デジタル・カメラを導入したのを承けて、前近代資料も全て同一方式に変更することに踏み切った点、無論これは、他の事業全ての電子情報化への移行と軌を一にしている。

また、国立大学・大学共同利用機関の行革、法人化への組織変革で、民博、歴博、日文研、地球環境研と「研究機構」として一体化する方向で検討が進み、それに対応して、館内組織の再編や研究、研究事業の態勢の見直しにも取り組み始めている。また、立川移転、総研大加入（博士課程設置）も目前に迫つて、全体が大きく変動する時期を迎えているのである。この否応なしの変化の時であるからこそ、文学を書籍資料の面から考へて行く姿勢の原点は、見据えておきたいと強く覚悟しているところである。（館長）

立 30 周年 記念 行事

を迎えました。これを記念し、9月から12月に
部、詳細未定のものがあります。決まり次第当
知らせします)

特別展示「古典が手元にとどくまで—館蔵貴重書のかずかず—」

日時 平成14年11月11日(月)～28日(木)〔土日祝も開催〕9時30分～16時30分

場所 当館展示室及び1、2階ロビー

内容 現代語訳されたり漫画になったり教科書に載ったりして、日ごろ何げなく目にしている、日本の古典文学作品——。しかしそこに至るまでには、多くの人々の努力が長い年月にわたって重ねられています。今年、創立30周年を迎える国文学研究資料館も、古典文学と現代社会の橋渡しのために、さまざまな役割を果たして来ました。特別展示では、当館がこの10年間に収集した貴重書約70点を出品いたします。古典籍の魅力に触れていただくとともに、当館の仕事の意義をご理解いただければ幸いです。

公開講演会「詩歌の未来形—創作と研究—」

日時 平成14年11月16日(土) 13時30分～16時30分

場所 当館大会議室

講師 田淵句美子(当館文献資料部教授)「古典和歌研究の一視点—貫人と「女房」—」

水原紫苑(歌人)「短歌創作における古典の活用」

ハルオ・シラネ(コロンビア大学教授)「トボスと時間意識—日本詩歌の宇宙」

古典連続講演会「百人一首—王朝和歌から中世和歌へ—」

平成14年度の古典連続講演会のテーマは「百人一首」です。百首の歌の解析、撰歌・成立の問題、以後の受容の様相等々、5回にわたり、幅広く奥深い内容をお届けする予定です。

講師 井上宗雄 立教大学名誉教授

日時・題目 9月26日(木) 百人一首の解釈について—筋縄では行かぬ作品群—

10月10日(木) 歌人群像—和歌と歌人とどちらを優先したか—

10月24日(木) 和歌史の流れとともに—その多様な詠みぶり—

11月7日(木) 百人一首の成立—撰者藤原定家をめぐって—

11月21日(木) 百人一首以後—百人一首はどのように受けとめられたか—

※各回、14時～15時30分(90分間)

会場 当館大会議室

定員 120名(応募者多数の場合は抽選) 聴講無料

※往復ハガキに氏名・住所・所属を御記入のうえ、「百人一首」連続講演係まで。

国文学研究資料館創

当館は昭和47年の開館以来、今年で創立30周年かけて、次のような行事を開催いたします。(一館ホームページ (<http://www.nijl.ac.jp/>) にてお

第26回国際日本文学研究集会

テーマ「文化のなかの文学、文学のなかの文化—文学研究の可能性—」

日時 平成14年11月14日(木) 15日(金)

場所 当館大会議室

内容

11月14日(木)

〔研究発表 13:10~17:10〕

座長 神野藤昭夫、木越 治、ロバート・キャンベル、坪井 秀人

Krzysztof OLSZEWSKI

二か国語併用と国風文化の創造の問題

—「土佐日記」に於ける唐風文化との対話の視点から—

「宮錦袍」をまとった李白と「恩賜の御衣」をしのぶ菅原道真

黄 幼 欣

日韓滑稽文学における対比研究試論

康 志 賢

—「東海道中膝栗毛」と「興甫伝(フンボチョン)」を中心に—

「不如帰」の「翻訳」—「小説 不如帰」から「家庭新詩 不如帰の歌」へ—

権 丁 熙

雑誌「女人芸術」の座談会における〈新しい女〉の考察

Sreedevi REDDY

—多方面恋愛座談会と異説恋愛座談会を中心に—

「気候と信仰と持病」からみる〈皇民文学者〉周金波研究の可能性

唐 瓊 瑜

拡散する〈身勢打鈴〉—李振成「砧をうつ女」にみる朝鮮文化の受容—

金 貞 愛

〔レセプション 17:30~19:00〕

11月15日(金)

〔研究発表 10:30~12:15〕

座長 小峯 和明

Saowalak SURIYAWONGPAISAL

謡曲「飛鳥川」の作品研究

金 賢 旭

住吉明神と白楽天—中世における翁の形象化をめぐる—

小山 聡子

祭礼行列における童子の職掌—中世前期を中心として—

〔公開講演 13:30~16:00〕

旅の文化・旅の文学

今関 敏子

和歌に依る法華経の解釈—慈円・尊円を中心に—

Jean-Noël ROBERT

参加方法：氏名・住所・現職・研究分野・レセプション参加希望の有無をお書きの上、郵便またはFAXでお送り下さい。申込書の形式は自由ですが、当館ホームページ (<http://www.nijl.ac.jp/>) 掲載のものをお使いになると便利です。参加費は無料です。

レセプション参加費：1,000円程度(当日お支払い下さい)

申込・問合せ：142-8585 品川区豊町1-16-10 国文学研究資料館研究情報部情報資料室内

国際日本文学研究集会事務局 03-3785-7131 内403, 408 fax03-3785-4455

第8回シンポジウムコンピュータ国文学

日時 平成14年12月6日(金) 予定

場所 当館大会議室 内容は未定です。

源氏物語 江戸初期写五十四帖

本書は、全帖一筆の五十四冊揃い本であり、「正徹本」と称すべき写本である。「源氏物語」の写本全五十四巻一揃いの分量は、字数にして約百万字、約二十二万文節である（陽明文庫本による換算）。本書の書写時期は近世初期と思われる。本の大きさは、縦二十三・三釐、横十七・二釐。用紙は鳥の子で列帖装。綴り表紙で、保存状態はよい。小虫による損傷が見えるが、被害は少ない。全冊に、いくつかの朱点と異本注記が少々ある。文字の修訂の跡は見あたらず、下敷きを用いた丁寧な書写態度が見て取れる。一面十行、一行十六字前後、和歌は二字下げ、読みやすい字体で書写されている。本書を實見して、まず阿里莫本（天理図書館蔵）を想起した。阿里莫本は近世中期、高坂松陰の手になる一筆本であり、雲隠六帖を付した全六十巻本である。当然ながら「正徹本はこれとは字体を異にするが、本の大きさ、装訂様式、紙質、各丁書写文字の分量などから、写本として非常に類似性の高い印象を受けた。

本書には奥書が存し、第一巻「桐壺」から第七巻「紅葉賀」の各巻末

に書写されている。嘉吉年間の正徹の奥書であり、それによると、冷泉為相から正徹へという、室町時代における「源氏物語」の伝来が読みとれる。正徹本から見た「源氏物語」の受容史が伺える奥書を有する写本である点からも、本書は貴重な資料だといえよう。「源氏物語大成 研究資料篇」（中央公論社）および「源氏物語事典」（東京堂）の解説にある「徳本氏旧蔵源氏物語」が本書と密接に関連しそうだが、その書承関係は弱そうである。徳本の奥書は、「須磨」「夢浮橋」にもある由だが、本書の該当巻にはない。現在、徳本本は所在が確認できない。金子元臣蔵正徹本もあつたが、戦火で焼失した。その意味からも、天理図書館蔵正徹本とともに本書は貴重な価値を持つと思われる。

本書の本文について、その詳細は未確認である。正徹の本文は、いわゆる青表紙本に依るとされてきた。しかし、初巻「桐壺」を一見するだけでも、「源氏物語大成」で別本とする写本に見られる語句が認められる。そこで、第三十八巻「鈴虫」だけについてではあるが、私の興味から本文調査を行った。

正徹本の本文を、大島本（いわゆ

る青表紙本とされてきた、近年の流布本の底本）と尾州家河内本という二本に文節単位で校合してみた。これは、すでに終えている「鈴虫」三十一種類の写本の本文異同と照合するためである（手法の詳細は、拙著

「原典購読セミナー7 「源氏物語」の異本を読む―「鈴虫」の場合―」臨川書店、平成十三年七月、を参照願いたい）。その結果、この正徹本「鈴虫」は、「首書源氏物語」に最も近い本文を有することがわかった。これに続いて、西下本（国文学研究資料館蔵）がほぼ同じ本文の異同傾向を見せている。正徹本「鈴虫」と近似する本文を伝えるグループとしては、御物本（東山御文庫蔵）、高松宮家本（国立歴史民俗博物館蔵）、湖月抄、絵入源氏が確認できた。ただし、この結果は本文異同を数値化することによって得たものであり、異同をみせる本文を（ことば）に拘って読解することによって、さらに各本文の性格を検討する必要がある。なお、「首書源氏物語」の本文は、肖柏本や三条西家本などの類似性が指摘されている。しかし、私の調査によるかぎりでは、「鈴虫」における近似性は高くない。今後とも、丹念に（ことば）の位相を読み分け

ながら物語を解釈し、その中で本文を定位していくことが大切である。

「源氏物語」の本文研究は、作品が有名な割には非常に遅れている。本文の系統は、約六十年前に池田亀鑑氏が（青表紙本・河内本・別本）と三分された。それが唯一の物差しとなり、依然として今に継承されている。しかし、私は（別本群）と（河内本群）の二群に分別する私案を提示している。従来のいわゆる青表紙本は、（別本群）に属したり（河内本群）に包含されたりする。この視点から今回の調査結果を見ると、本書正徹本「鈴虫」は、（河内本群）の中にありながら幾分（別本群）寄りの本文を有する、ということになる（詳細は別稿を予定）。

「源氏物語」の本文研究は、池田亀鑑氏による昭和十年代の成果の後、ほとんど進展していない。基本資料となつている「源氏物語大成」には、昭和十三年以降に確認された資料は収載されていない。その意味からも、国文学研究資料館に収蔵された正徹本「源氏物語」あたりから、本文研究を再出発してもいいのではなからうか。そんな若手研究者が現れてくれることを期待したい。

（研究情報部・伊藤鉄也）

文献資料部事業報告

谷川 恵 一

*平成十三年度国文学文献資料調査・収集の概況

文献資料部では、国内外の各所蔵機関および調査員の方々の御協力のもとに資料調査および収集を行ない、左記の成果を挙げる事ができた。

一 調査

国内 一三五箇所 一一、三〇五点
海外 九箇所 一、六二一点
合計 一四四箇所 一二、九二六點

二 収集

国内 五二箇所 四、八三九点
海外 一箇所 一〇〇点
合計 五三箇所 四、九三九点
これにより、累計の調査点数は約二九万五千点、収集点数は約一七万点となった。

平成十三年度の調査・収集先は左記のとおりである(ただし、個人を含めず、予備調査は除く。括弧内のアラビア数字は調査の、漢数字は収集の点数を示す。*を付したものは新規)。当館の事業を理解していただき調査・収集に

じてくださった各所蔵機関と、調整にあたられた担当者各位に感謝いたします。

- 伊達市開拓記念館(140)・弘前市立図書館(183・六六)・八戸市立図書館(69・五九)・盛岡市中央公民館(七五)・宮城県図書館(70)
- ・東北大学附属図書館(狩野文庫)(79)・仙台市博物館(86)・山寺芭蕉記念館(六一)・山形大学附属図書館(286)・山形短期大学附属図書館(19)・酒田市立光丘文庫(114・六五)・米沢市立米沢図書館(58)・福島県歴史資料館(84)・会津若松市立会津図書館(95)・初瀬川文庫(三〇)・茨城大学附属図書館(74)・筑波大学附属図書館(宮木文庫)(100)・輪王寺天海蔵(51)・早稲田大学図書館(教林文庫等)(395)・宮内庁書陵部(126・二二二)・法政大学能楽研究所(鴻山文庫)(五五)・三井文庫(24)・東洋文庫(74・三三)・尊経閣文庫(二八)・東京都立中央図書館(東京誌料)(49・六七)・

- 東京大学文学部宗教学研究室(八七)・東京大学教養学部国文漢文学教室(637)・横浜開港資料館(47)
- ・新潟大学附属図書館(佐野文庫)(七九)・新潟県立図書館(37)・黒川村公民館(六四)・鶴飼文庫(58)・金沢大学附属図書館(20)
- ・小浜市立図書館(50)・山梨大学附属図書館(近代学文庫)(37)・上田市立図書館(花月文庫)(100・三五)・長野県立歴史館(31)
- ・諏訪市博物館(26・一〇六)・高遠町文化センター(21)・浜松市立賀茂真淵記念館(52・二六〇)・三島市郷土館(勝俣文庫)(27)・名古屋市鶴舞中央図書館(56)・名古屋市蓬左文庫(90・六七)・大須文庫(128・一五四)・愛知県立大学附属図書館(六六)・名古屋博物館(87・八五)・新城ふるさと情報館(牧野文庫)(四八)・富加町郷土資料館(345)・尾鷲市立中央公民館郷土室(64)・夢望庵文庫(74・七六)・京都府立総合資料館(66・九二)・京都大学学部(頼原文庫)(九七)・蘆庵文庫(8・五五)・陽明文庫(404・五五)・百々御所文庫(五一)・京都国立博物館(28)・立命館大

- 学総合情報センター(73)・瑞光寺(215)・奈良女子大学附属図書館(36)・天理大学附属天理図書館(37)・郡山城跡柳沢文庫保存会(41・五七)・大阪府立中之島図書館(4)・大阪天満宮御文庫(51・四九)・大阪女子大学附属図書館(14)・神戸大学附属図書館(住田文庫)(188・八〇)・田辺市立図書館(26)・南方熊楠邸保存顕彰会(77・九二)・青山歴史村(42・六三)・鳥取県立図書館(75・五三)・岡山大学附属図書館(池田文庫)(14)・ノートルダム清心女子大学附属図書館(85・七二)・津山郷土博物館(28)・広島大学附属図書館(60)・三原市立図書館(28)・専徳寺(66)・山口県文書館(3)・下関市立長府博物館(40)・山口大学附属図書館(棲息堂文庫)(85)・毛利博物館(六四)・岩国市立中央図書館(71)・岩国徴古館(二八七)・光市文化センター(21)・香川大学附属図書館(神原文庫)(45)・鎌田共済会図書館(48・七二)・総本山善通寺(648・四〇)・愛媛県立図書館(50)・大洲市立図書館(100・八六)・徳島県立図書館(森文庫)(59)・高知県立図書館

(山内文庫)〔94・一七五〕・高知市民図書館(近森文庫)〔203・八一〕・柳川古文書館〔16〕・佐賀大学附属図書館〔53〕・祐徳稲荷神社(中川文庫等)〔215・一一二〕・長崎県立長崎図書館〔37〕・長崎大学附属図書館経済学部分館〔九〇〕・諏訪文庫〔121〕・諫早市立諫早図書館(諫早文庫)〔425〕・肥前松平文庫(島原市立図書館内)〔54・一二五〕・松浦史料博物館〔63〕・長崎県立対馬歴史民俗資料館〔20〕・熊本大学附属図書館(五高旧蔵書)〔273〕・熊本市立図書館(武藤文庫)〔43〕・人吉市図書館〔150〕・臼杵市立臼杵図書館〔93〕・杵築市立図書館〔59・一〇〇〕・佐伯市教育委員会〔31〕・竹田市立図書館〔90〕・別府市立図書館〔159〕・飫肥城歴史資料館〔37〕・台湾大学図書館〔86〕・プルベラ一家(ドイツ)〔60〕・サレジオ大文学マレガ文庫(イタリア)〔267〕・韓国国立中央図書館〔305・一〇〇〕・パリ東洋語図書館〔365〕・上海図書館〔37〕・天一閣博物館(中国)〔21〕・サハリン郷土博物館〔472〕・サハリン国立公文書館〔8〕

平成十三年度から、文献資料部が中心となって、これまで当館が蓄積してきた紙の調査カードの保存と活用を目的として、調査カードをデジタル画像として保存し、データベース化する事業を五ヶ年計画で開始した。作業は順調に進捗し、当該年度内に、既存の調査カードの約七割強にあたる二二六枚のカードをデジタル画像化し、そのうちの二四、〇〇〇点について、書名などの主要項目をデータベース化した。平成十四年度も引き続き作業を継続し、秋には一部を当館のホームページにおいて公開する予定である。

*平成十四年度調査・収集計画

今年度も、昨年度来の継続箇所を中心に、国内で一四一箇所の調査を行ない、一〇、四〇〇点の文献を調査する計画を立て、実行に移している。収集は同じく六四箇所、四、三一〇点を予定している。なお、今年度より、これまで第四文献資料室(近代)が進めてきたデジタル調査・収集の方式を江戸期以前の文献の調査・収集にも漸次導入していくこととし、所蔵機関のご理解と調査員の協力が得られたケースから順次切り替えている。調査に際しては、当館よりノートパソコンとデジタルカメラを調査先に送り、調査員はノートパソコン上の調査カードに必要事項を記入し、あわせて書誌的に重要と判断される箇所をデジタルカメラで撮影している。調査カードは、従来の紙の調査カード(Sカード)をベースにして、市販のデータベースソフトで作成したものを使用している。収集は高精細なカラー画像を得られるデジタルカメラによって行なう予定であるが、調査を含め、デジタルへの移行を完了するまでにはなお数年を要すると予想され、当面は、これまでの紙とマイクロフィルムによる方式とデジタル方式とを併用していくこととなる。デジタル方式の採用によって、調査によって得られた情報を独立した書誌情報として参照しうること、来館しなくとも収集した資料を自在に閲覧できること、などの効果が期待される。

*第五文献資料室

平成十四年度は、客員教授として、青山学院大学文学部の武藤元昭教授が着任した。併任助教は、前期が鳴門教育大学学校教育学部の赤松万里教授、後期が新潟大学教育人間科学部の石坂妙子助教に委嘱、それぞれの専門分野から多様な文献の研究に従事していた。だいてる。

*国際研究室

平成十四年度は、七月一日から半年の任期で、フランス国立高等研究院のロベール・ジャン・ノエル教授が着任、中世の釈教歌をテーマとして研究されている。

*その他

第一文献資料室の新藤協三教授が四月に転出した後に、第二室の山崎教授が移動し、併せて同室の落合助教も第一室に移動した。第二室の教授には、整理閲覧部より田淵句美子教授を迎え、落合助教の後は第一室から小川助教が移動した。新藤教授の後の文献資料部長には、第四室の谷川が補せられた。非常勤研究員には昨年度に引き続き加藤慎行氏が、リサーチアシスタントには小野祐子・和田琢磨・小林実の三氏が新規採用された。(文献資料部長)

*調査カードのデータベース化

研究情報部事業報告

松村 雄 二

情報資料室

第二十五回国際日本文学研究会を、十一月十五、十六日両日にわたって開催した。参加者は一一九名（うち海外より三五名）。本年度は「造形と日本文学」のテーマを設け、研究発表は九名全員がこのテーマに関するものであった。招待研究発表者はバリ第七大学のクレール・碧子・プリッセ助教と、オランダ・ライデン国立民族学博物館のマティ・フォーラー学芸員の二名。公開講演は「文学研究と映像メディア」の表題で、金沢大学の木越治教授、「浦島伝説から浦島子伝への発展について」亀蓬葉山、玉手箱」の表題で、北京大学の嚴紹璽教授が行った。なお、これらの内容を収める会議録を三月に刊行した。

他に新聞掲載の国文学関係記事の収集、年二回（九月、三月）の館報の発行およびバックナンバーを含めたオンライン版の作成とホームページによる公開、学会等国

文学関係の催事の情報収集とホームページによる発信を行った。

情報分析室

「国文学年鑑（平成十二年）」の刊行時点までの報告とする。

「国文学年鑑（平成十二年）」の編集を完了し、平成十四年七月に刊行した。主要項目の収載件数は次のとおりである。

- ①雑誌・紀要・論文集・新聞所載論文 一一、〇一〇
 - ②学会一覽 四三
 - ③学会研究発表一覽 八八三
 - ④新指定文化財 一七
 - ⑤平成十二年度文部省科学研究費等交付 七二一
 - ⑥受賞一覽 八一
 - ⑦訃報 四三
 - ⑧単行本書名一覽 二、七四九
 - ⑨収載雑誌紀要一覽 一、二二〇
 - ⑩発行所一覽 一、〇三七
 - ⑪翻刻複製作品一覽 九六一
 - ⑫執筆者索引 九、三〇二
- 頁数は平成十一年版より四三頁

増の九一一頁。販売価格は若干値上げとなり、一一、八〇〇円である。

「国文学論文目録データベース」は、平成十二年分論文情報と十三年分の一部データ等を、一三、五五五件入力した。また検索方法を改善した（詳しくは館報五七号「新しくなった国文学論文目録データベース」参照）。公開システムを変更し、十月に、「年鑑」刊行より早く、十二年論文データの一部を公開した。

アクセス数は一日平均で二七五件あった。この数字は予想を上回っており、本データベースの利用価値の高さを物語っている。

たとえば山上憶良という作者、「好色一代男」という作品、「幽玄」という概念について述べた論文を知りたい時、本データベースで検索をかければ、表題にこの言葉が入った論文名がちどころに並ぶ。執筆者別にも研究者の書いた論文を総覧することも容易である。これは「年鑑」をいちいち繰って調べるより、格段に迅速な方法である。こういった点が周知されてくれば、アクセス数はさらに増加すると予測される。

ただ、本データベースは、「年鑑」の項目のうち、前記①のみを搭載するものである。②③は当館のホームページで見ることができ、④⑤⑥は冊子体の「年鑑」で調べなければならない。年鑑の研究者の中には、キーボードによる検索が重いという方も多にちがいない。論文題をジャンルに従って通覧することの意義もあるだろう。「年鑑」と「データベース」の併存は、まだ当分は学界的強い要請と考えている。

「国文学論文目録データベース」の作成経費は、平成十四年度から科研費のデータベース科研に拠らざるを得なくなった。当館予算の削減は、種々の研究や事業に影響を及ぼすことになりそうである。

データベース室

当室の看板事業である原本テキストデータベースは、十三年度中の出版予定であった「栄華物語」と四鏡の歴史物語CD-ROMが、岩波書店の担当者の事故により、遅れを生じた。次に予定されている「古事記」「出雲国風土記抄」と同時に十四年度内刊行となる。十三年度には、「夫木和歌抄」

の監修作業を行った。版本と写本各一点、及び濱口博章氏所蔵の卷子一軸を底本に全国の若手研究者からなる十二名の監修員が取組み、内容的には高度な問題が提起されたが、今後のデータベースとしての仕上げまでにはかなりの時間を要しよう。なお、後統の原本テキストデータベースメニューには、『扶桑拾葉集』『五畿内名所図絵』『謡曲台本』『明月記』がある。

既刊のうち「正保版本二十一代集データベース」は、当館のホームページから検索できるインターネット版を開発し、公開を始めた。原本テキストデータベースとは別に開発中の古典人名データベースは着実に進んでおり、そのうちの肖像画データベースの部分はホームページのデータベース室サイトから見る事ができる。ただし、国文研→研究情報部→データベース室と辿る必要がある。余談であるが、「国文研のホームページは、隅々まで見ておかないと勿体ない」という噂があるらしい。

シンポジウムコンピュータ国文学は、十二月三日に「国文学研究のインフラストラクチャー―二十一世紀の物づくりたち―」という

テーマで第七回を開催した。データベースを作成する現場に焦点を当てた試みであったが、国文学研究者の大半は、ユーザの立場に自己規程してしまっているせいか、少し食いつきが悪かったように感じられた。

情報処理室

情報システムに関わる通常の運用・運転を除く平成十三年度の事業を、以下のように実施した。

- (1) 基本サーバ (Enterprise) を中心としたサーバ系、約一五〇台に及ぶパソコン・プリンタ等のクライアント系、ギガビットイーサネットによる高速ラン系の三つのカテゴリに基づき、第六期情報システムの二四時間連続運用、情報資源の安全性、信頼性を保持する監視システムの運用を行った。
- (2) 国文学論文目録、史料所在各データベースの運用機能の拡充を図り、これらのデータベースの基本サーバへの移行を進めた。
- (3) 館の業務が複数サーバによる分散環境に移行したことに

伴い、システム運用管理体制の見直しを行い、新たな運用環境を構築し、実施した。

- (4) システムへのハッカー、ウイルス攻撃の頻発に対抗し、ファイヤーウォール機能を向上させるなど、セキュリティ対策の強化を実施した。特に、メールシステムに対するウイルスチェックシステムを導入し、その運用を行った。
- (5) 旧岩波古典文学大系本文のデータベース試験公開を継続運用すると共に、ほぼ全巻のXML化を実現した。
- (6) 国立情報学研究所で開催された人文系共同利用機関情報システム連絡会において、システムの運用管理等につき、情報交換を行った。

情報メディア室
次の各事業を行った。

- ・岩波書店CD-ROM版「源氏物語」(二十一代集)「吾妻鏡」本文テキストの完全XML化
 - ・XMLネイティブのデータベースエンジン(イグドラシル)の導入と運用
- データベースに依存しない、XML検索言語に基づいた汎用な検索インターフェース構築支援ツールの提案と実装
- ・本館ホームページサーバの運用移行支援
 - ・館主催のシンポジウム、講演会等のインターネット中継への支援、協力

研究開発室(客員部門)

客員として、実践女子大学文学部から牧野和夫教授(中世・仏書研究)を、北海道教育大学教育学部札幌分校から中島和歌子助教授(中古・平安朝生活誌研究)を迎え、それぞれの研究に従事していただいた。また、十二年度以降に

おける開発室の研究開発経費の停止によって、国文学データベースに関する新しい研究計画を推進するまでに至らず、それぞれの専門的立場から望まれるデータベース(牧野教授は中世期の仏書、中島助教授は陰陽道関係書)の開発につき、データベース室の助言・協力を受けて研究を進めた。

(研究情報部長)

整理閲覧部事業報告

鈴木 淳

整理閲覧部では、資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等の業務を行っている。平成十三年度の当部の業務は次のとおりであった。

情報サービス室

①資料の受入

資料受入数についてみると、マイクロ資料は、ロールフィルム九四一リール、図書は、四、六七八冊、逐次刊行物は、四、四一〇冊であった。その結果、平成十三年度末の全所蔵数は、別表のとおりとなった。

②マイクロ資料の整理

マイクロ資料目録データ約四、〇〇〇件を作成し、約三、〇〇〇件のデータの点検を行った。

③図書資料の整理

和古書は目録データ約二、〇〇〇件を作成した。また、一、〇〇九点の和古書の装備を行った。

活字本・影印本は、二、〇一九冊を整理し、遡及入力は外注作業

と併せて五、〇八一冊を処理した。明治期資料は九一三冊の整理を行った。

逐次刊行物は、一、九五七タイトルを受入、整理を行った。また、国立情報学研究所「学術雑誌総合目録欧文編」のデータ更新のため同研究所目録システムへ洋雑誌一九五タイトルのデータ入力及び修正作業を行った。

④閲覧業務

年間開室日数は、二二六日、来館利用者数は、六、八〇四人（一日当たり三〇・一人）、登録者数は、八八二人（一日当たり八・三人）であった。閉架資料の閲覧点数は、二一、八七二点（一日当たり九六・八点）であった。

また、文献複写は、二六、一四件（一日当たり一一・五・五件）で、電子複写（リーダープリンターを含む）二四〇、五〇九枚、紙焼写真二七、六四二枚、ポジフィルム五、五〇八コマを作製した。

⑤相互利用

大学図書館等からの複写・相互貸借の受付は、複写三、九九九件、貸借一〇〇件一二三冊であった。他機関への依頼は、複写一三九件、貸借は二件一六冊であった。

⑥資料の保存

保存用ネガフィルムの外部保管委託は、平成十一年度収集分八二九リールを追加委託し、総計三〇、八七四リールとなった。

また、和古書については帙一、三五四個を作成し、八点（二四冊）の補修、八個の桐箱作成を行った。明治期資料は七〇〇個の帙を作成した。

なお、例年どおり、四月末から

五月初めにかけて資料のくん蒸、年度末には蔵書点検を実施した。

⑦古典籍総合目録作成事業

古典籍の総合所在目録データベースを構築し公開することをめざし作業を継続している。

今年度は、書誌データ約一八万件について、公開のためのデータ点検及びデータベースへの反映を行った。また、典拠ファイル（個々の本に関する書誌データをとりまとめ、書名等を統一するための著作、著者に関する情報ファイル）の改訂を継続して行った。

参考室

①参考業務

参考質問の受付・回答は四四一件であった。

②公開講演会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会を開催した。

○第五十七回「ジェンターの生成」

（五月十八日、当館）

・「古今集の「ことば」の型一言語表象とジェンター」近藤みゆき氏（実践女子大学文学部助教）

・「女が和歌を書くとき―女懐紙をめぐって―」兼築信行氏（早稲田大学文学部教授）

・「源氏物語とジェンター―和漢のはざままで―」河添房江氏（東京

学芸大学教育学部助教）

○第五十八回「田安德川家の蔵書と学芸」（平成十四年二月二十

二日、当館）

・「田安家の学問」鈴木淳（当館整理閲覧部長）

・「田安家蔵書の伝存について」

松方冬子氏（東京大学史料編纂所助手）

・「田安家と楽書」福島和夫氏

（上野学園日本音楽資料室長）

○臨時「国の移転機関と地域との

交流講演会) (八月二日、立川市女性総合センター)

- ・「源氏物語―書物文化の窓から―」松野陽一(当館館長)、中村康夫(当館データベース室長)
- ③ 古典連続講演

「連続講演西鶴」長谷川強氏(当館名誉教授)による五回の講演(九月二十八日、十月十二日、十月二十六日、十一月九日、十一月二十二日、当館)

④ 展示

○ 特別展示

・「田安德川家伝来古典籍展」(平成十四年二月十二日〜三月一日)

○ 通常展示

- ・第七十六回「和書のみまざま」(平成十三年三月十二日〜五月十八日)
- ・第七十七回「近世前期の文学」(十月一日〜十一月十六日)
- ・第七十八回「和書のみまざま」(平成十四年三月十八日〜四月二十六日)
- 臨時「国の移転機関と地域との交流展示会」
- ・「源氏物語の諸本と絵本」(七月三十一日〜八月五日)

⑤ 講演集・展示目録の刊行

公開講演会の講演録である「古典講演シリーズ」は第八巻「ジュンダの生成―古今集から鏡花まで」(臨川書店)を刊行、また特別展示の図録として「田安德川家伝来古典籍」(三弥井書店)を刊行した。

(整理閲覧部長)

別表 所蔵資料統計 (平成14年3月末現在)

資料種別	点数	冊(リール)数
マイクロ資料	マイクロフィルム※	160,577点 36,471リール
	マイクロフィッシュ	16,649点 57,321枚
	紙焼写真本	— 65,255冊
図書(古書及び新刊書)	46,649点	120,672冊
逐次刊行物	4,874誌	147,598冊
寄託資料	958点	4,307冊

※他に複写用ネガ32,486リール、閲覧用ポジ33,765リールがある。

文庫紹介 ③7

京都府立総合資料館

昭和三十八年に創設された京都府立総合資料館には、京都府立図書館から引き継がれた蔵書、及び大宰文庫をはじめとする個人の旧蔵書などによって構成される多数の古典籍が収蔵されている。うち約六百点の貴重書については「京都府立総合資料館貴重書目録」(昭和四十六年三月 同館編・発行)において周到な解説付きで整理・紹介されており、同書を一旦繕くだけで稀本・善本の豊富なることが知られる。有名なところでは百二十句本「平家物語」(特八三八―一六)などが挙げられようが、また歌書・物語類の中にも例えば仁融筆「新古今集」(特八三一―二四)や細川幽斎奥書本「藤川百首注」(特八三一―八三)、伝月樵筆「伊勢物語」(A特九一三・三二―G三八)などの室町期古写本が多く含まれる。また「雪峯空和尚外集」(特八二二―一九)などの五山版、「万葉集」(特八三一―四六)などの古活字版も散見される。

このような貴重書に加え、一般書扱いの書籍の中にも近世木版本

を中心とする相当数の和本が存する。ただし貴重書のような冊子体の目録はないので、所蔵状況を知るためにはカード体の目録を一枚ずつ繰っていく必要がある。なお国文学研究資料館では現在この一般書扱いの和本の方を調査中である(貴重書についてはすでに終了)。またマイクロフィルムによる収集も継続的に実施している。

京都府立総合資料館は京都市営烏丸線北山駅下車すぐそば。開館時間は九時〜十六時三十分。休刊日は祝日(日曜日の場合は翌日代休)。第二水曜日・十二月二十八日〜一月四日・春季の資料整理期。利用は無料。問い合わせ先は次のとおり。

〒六〇六―〇八二三 京都市左京区下鴨半木町一―四
TEL 〇七五―七二三―四八三三 (文献課)

ちなみに貴重書の一部については「京都府図書館マルチメディア閲覧」というホームページ(<http://www.library.prefkyoto.jp/>)でほぼ全一閲覧可となっている。

(文献資料部・久保木秀夫)

彙報

・委員会日誌・

平成14年

2月5日 国文学文献資料収集計

画委員会

2月7日 図書選定委員会

2月12日 自己点検・評価委員会

2月13日 図書資料委員会

2月20日 講演会・展示会等小委

員会

将来構想委員会

2月28日 将来構想委員会

3月11日 講演会・展示会等小委

員会

3月12日 広報誌小委員会

3月13日 古典籍総合目録委員会

3月22日 広報委員会

4月4日 将来構想委員会

4月9日 講演会・展示会等小委

員会

ホームページ小委員会

4月16日 創立30周年記念誌編集

小委員会

「国書総目録」著作権

活用方法検討会

4月18日 創立30周年記念事業委

員会

大学院教育協力委員会

4月23日 自己点検・評価委員会

創立30周年記念誌編集
小委員会
4月25日 公開等データベース小
委員会

4月26日 移転問題検討委員会

5月7日 講演会・展示会等小委

員会

5月8日 ホームページ小委員会

5月14日 国文学文献資料収集計

画委員会

5月17日 「国書総目録」著作権

活用方法検討会

5月21日 広報誌等小委員会

5月23日 国文学文献資料調査員

会議総会

5月24日 原本テキストデータベ

ース監修員会議

5月28日 公開等データベース小

委員会

5月30日 共同研究委員会

6月5日 ホームページ小委員会

6月7日 原本テキストデータベ

ース委員会

6月11日 講演会・展示会等小委

員会

6月17日 将来構想委員会

6月18日 「国書総目録」著作権

活用方法検討会

6月20日 自己点検・評価委員会

大学院設置準備委員会

6月24日 将来構想委員会
6月25日 名誉教授選考委員会
6月27日 広報誌小委員会

・運営協議員会の開催について・
平成14年度第1回運営協議員会が
平成14年6月25日(火)に開催さ
れ、名誉教授候補者選考等につい
て協議が行われた。

・外国出張・
伊藤 鉄也

渡航先 カナダ・アメリカ合衆
国

目的 在外古典籍のデータベ
ース化に関する資料収
集及び打ち合わせ

期間 平成13年11月22日～
平成13年11月29日

渡航先 谷川 恵一・齋藤 希史
ロシア連邦共和国

目的 在サハリン日本語文
献の調査

期間 平成13年11月23日～
平成13年11月29日

渡航先 久保木秀夫
渡航先 アイルランド・イギリ
ス

目的 チェスタービーティ
ー・ライブラリーの所蔵
資料・関連資料の調査

期間 平成13年11月29日

渡航先 山崎 誠
渡航先 イギリス

目的 ロンドン大学の中世写
本のデジタル化の調査

期間 平成13年12月2日～
平成13年12月13日

期間 平成13年12月2日～
平成13年12月13日

中野真麻理
渡航先 アイルランド・イギリ
ス

目的 チェスタービーティ
ー・ライブラリー所蔵資
料の調査

期間 平成13年12月2日～
平成13年12月13日

渡航先 鈴木 淳
渡航先 イギリス・ドイツ

目的 在欧州日本古典籍の調
査とその分類方法の実
情調査

期間 平成14年1月23日～
平成14年2月2日

渡航先 武井 協三
渡航先 イギリス

目的 国際コラボレーション
による日本文学研究資
料情報の組織化と発信
に関する調査研究

期間 平成14年2月1日～

渡航先 山崎 誠
渡航先 イギリス

目的 ロンドン大学の中世写
本のデジタル化の調査

期間 平成13年12月2日～
平成13年12月13日

渡航先 伊藤 鉄也
渡航先 カナダ・アメリカ合衆
国

目的 在外古典籍のデータベ
ース化に関する資料収
集及び打ち合わせ

原 正一郎
平成14年2月7日

渡航先 アメリカ合衆国
目的 国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信のための研究

期間 平成14年2月16日～
平成14年2月28日

安永 尚志

渡航先 フランス

目的 科学研究費基盤研究A(2)の最終年度に当たり、研究成果の最終的な評価を得るための研究打ち合わせ・成果の利活用の方法についての検討

期間 平成14年2月17日～
平成14年2月25日

山下 則子

渡航先 イタリア

目的 欧州における日本古典籍の調査及び打ち合わせ

期間 平成14年2月17日～
平成14年2月27日

岡 雅彦

渡航先 アメリカ合衆国

目的 アメリカ国内所在の江

戸絵入本の調査
期間 平成14年2月20日～
平成14年2月27日

新藤 協三
渡航先 アメリカ合衆国
目的 アメリカ国内所在の日本文学文献資料の調査

期間 平成14年2月20日～
平成14年2月27日

入口 敦志

渡航先 台湾

目的 台湾大学所蔵日本語古典籍に対する緊急調査

期間 平成14年2月24日～
平成14年3月9日

鈴木 淳

渡航先 アメリカ合衆国

目的 国際コラボレーションによる日本文学文献資料情報の組織化と発信

期間 平成14年2月25日～
平成14年3月8日

堀川 貴司・小川 剛生

渡航先 大韓民国

目的 韓国国立中央図書館蔵旧朝鮮総督府本の調査・収集

期間 平成14年3月3日～
平成14年3月7日

齋藤 希史

渡航先 フランス
目的 フランス国立図書館およびパリ東洋図書館所蔵古典籍の調査

期間 平成14年3月8日～
平成14年3月17日

中野真麻理・久保木秀夫
・谷川 恵一

渡航先 フランス

目的 パリ東洋図書館所蔵和刻古典籍の調査

期間 平成14年3月10日～
平成14年3月16日

安永 尚志

渡航先 イタリア

目的 基盤研究(S)におけるコラボレーションシステム実験、実証実験、国際会議(AIDLG)における研究成果発表。

期間 平成14年3月15日～
平成14年3月28日

研究のまとめ、今後の研究計画の策定

海外研修旅行・原 正一郎

渡航先 アメリカ合衆国・メキシコ

目的 2001. PNC Interim

Conference 出席・発表及び打ち合わせ
期間 平成13年11月29日～
平成13年12月9日

巖 紹壘

渡航先 中華人民共和国

目的 中国中日比較文学学会・日本和漢比較文学会(中日)・日中比較文学国際シンポジウムに参加

期間 平成13年12月6日～
平成13年12月11日

伊藤 鉄也

渡航先 インド

目的 インド国内における外国語でかかれた日本文献の調査・研究及び研究結果発表

期間 平成14年1月6日～
平成14年3月20日

大高 洋司

渡航先 中華人民共和国

目的 北京市を中心とする中国内における日本資料・漢籍・東アジア資料の調査・研究及び研究成果の発表

期間 平成14年2月23日～
平成14年7月12日

評議員等名簿

評議員

任期 平成14年7月1日～平成16年6月30日

朝尾直弘 京都橋女子大学文学部学員教授、京都大学名誉教授

石毛直道 国立民族学博物館長

大口勇次郎 聖徳大学人文学部教授

甲斐陸朗 独立行政法人国立国語研究所長

榊山敏一 独立行政法人国立美術館理事、国立西洋美術館長

北原保雄 筑波大学長

久保木哲夫 都留文科大学名誉教授

久保田淳 白百合女子大学文学部教授

興膳宏 独立行政法人国立博物館理事、京都国立博物館長

後藤祥子 日本女子大学長

佐々木毅 東京大学長

末松安晴 国立情報学研究所長

堤精二 お茶の水女子大学名誉教授

中野三敏 福岡大学人文学部教授

野崎弘 独立行政法人国立博物館理事、東京国立博物館長

野山嘉正 放送大学教授

平岡敏夫 日本学術会議会員

宮地正人 国立歴史民俗博物館長

山折哲雄 国際日本文化研究センター所長

吉原健一郎 成城大学文学部教授

運営協議員

任期 平成14年8月1日～平成16年7月31日

伊井春樹 大阪大学大学院文学研究科教授

岡崎久司 早稲田大学熊野文化研究所客員教授

高埜利彦 学習院大学文学部教授

十川信介 学習院大学文学部教授

外村南都子 白百合女子大学文学部教授

名和修 財団法人陽明文庫長

原道生 明治大学文学部教授

藤井讓治 京都大学大学院文学研究科教授

森正人 熊本大学文学部教授

吉田伸之 東京大学大学院人文社会学系研究科教授

共同研究委員会委員

任期 平成13年4月1日～平成15年3月31日

妹尾好信 広島大学大学院文学研究科助教授

竹本幹夫 早稲田大学文学部教授

富士昭雄 駒澤大学名誉教授

牧野和夫 実践女子大学文学部教授

三木紀人 城西国際大学人文学部教授

三田村雅子 フェリス学院大学文学部教授

国文学文献資料収集計画委員会委員

任期 平成13年4月1日～平成15年3月31日

市古夏生 お茶の水女子大学文教育学部教授

加藤定彦 立教大学文学部教授

小島孝之 東京大学大学院人文社会学系研究科教授

後藤昭雄 大阪大学大学院文学研究科教授

松城俊太郎 新潟大学人文学部教授

任期 平成14年4月1日～平成16年3月31日

朝倉尚 広島大学総合科学部教授

川上新一郎 慶応義塾大学附属研究所新道文庫教授

高山節也 二松学舎大学文学部教授

十川信介 学習院大学文学部教授

美濃部重克 南山大学人文学部教授

国際日本文学研究集会委員会委員

任期 平成14年4月1日～平成16年3月31日

今関敏子 川村学園女子大学人間文化学部教授

木越治 金沢大学文学部教授

神野藤昭夫 跡見学園女子大学文学部教授

小峯和明 立教大学文学部教授

坪井秀人 名古屋大学大学院人間情報学研究科教授

ロバート・キャンベル 東京大学大学院総合文化研究科助教授

原本テキストデータベース委員会委員

任期 平成14年4月1日～平成16年3月31日

加納重文 京都女子大学文学部教授

久保田啓一 広島大学大学院文学研究科教授

森正人 熊本大学文学部教授

吉村誠 山口大学教育学部教授

石川一 県立広島女子大学国際文化学部教授

三角洋一 東京大学大学院総合文化研究科教授

廣木一人 青山学院大学文学部教授

情報システム委員会委員

任期 平成14年4月1日～平成16年3月31日

安達文夫 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授

石塚英弘 図書館情報大学図書館情報学部教授

内田保廣 共立女子大学文学部教授

杉田繁治 国立民族学博物館民族学研究部教授

長崎健 中央大学文学部教授

中山雅哉 東京大学情報基盤センター助教授

根岸正光 国立情報学研究所学術研究情報研究系教授

星野聰 京都大学名誉教授

和中幹雄 国立国会図書館総務部情報システム課長

近藤泰弘 青山学院大学文学部日本文学科教授

神立孝一 御橋大学経済学部教授

古典籍総合目録委員会委員

任期 平成13年4月1日～平成15年3月31日

市古夏生 お茶の水女子大学文教育学部教授

今 西 裕 一 郎 九州大学文学部教授
 柴 田 光 彦 元路見学園女子大学文学部教授
 田 村 潤 二 東京大学附属図書館事務部長
 原 道 生 明治大学文学部教授
 宮 澤 彰 国立情報学研究所基礎研究センター長
 西来路 秀 彦 国立国会図書館 主簿情報部部長
 古典情報課長事務取扱
 国文学文獻資料調査員

任期 平成14年4月1日～平成15年3月31日

〔北海道・東北地区〕

小林 真 二 北海道教育大学教育学部函館校助教授
 杉 浦 清 志 北海道教育大学教育学部函館校教授
 竹 下 香 織 山形短期大学助教授
 永 田 信 也 北海道教育大学教育学部旭川校助教授
 名 子 喜 久 雄 山形大学教育学部教授
 播 磨 光 寿 国学院短期大学教授
 宮 澤 照 恵 北星学園大学経済学部教授
 〔関東地区〕
 池 澤 一 郎 明治大学法学部助教授
 池 山 晃 大東文化大学文学部助教授
 石 神 秀 美 鶴見大学文学部非常勤講師
 石 澤 一 志 鶴見大学文学部非常勤講師
 石 塚 修 筑波大学文芸・言語学系講師
 井 上 泰 至 防衛大学校人間文化学科助教授
 岩 見 照 代 麗澤大学外国語学部教授
 大 内 瑞 恵 都留文科大文学部非常勤講師
 木 戸 雄 一 佛教大学非常勤講師
 佐 伯 孝 弘 清泉女子大学文学部助教授
 佐 藤 知 乃 青山学院女子短期大学非常勤講師
 黒 石 陽 子 東京学芸大学教育学部助教授
 津 田 真 弓 日本女子大学非常勤講師

西 山 美 香 聖心女子大学文学部非常勤講師
 姫 野 敦 子 東京大学大学院人文社会科学系研究助手
 藤 田 洋 治 東京成徳短期大学教授
 山 本 陽 史 明海大学外国語学部教授
 湯 浅 佳 子 東京学芸大学教育学部講師
 只 一 卜 千 々 々 東京大学大学院総合文化研究科助教授
 綿 坂 豊 昭 図書館情報大学図書館情報学部教授

〔中部地区〕

石 坂 妙 子 新潟大学教育人間科学部助教授
 有 働 裕 愛知教育大学教育学部助教授
 神 作 研 一 金城学院大学文学部助教授
 甘 露 純 規 名城大学法学部非常勤講師
 木 越 治 金沢大学文学部教授
 佐 藤 至 子 旭山女学院大学人間関係学部講師
 島 田 大 助 豊橋創造大学経営情報学部助教授
 鈴 木 孝 庸 新潟大学文学部教授
 高 橋 明 彦 金沢美術工芸大学美術工芸学部助教授
 戸 谷 精 三 長野工業高等専門学校校助教授
 中 川 豊 中京大学非常勤講師
 服 部 仁 同朋大学文学部教授
 廣 部 俊 也 新潟大学文学部助教授
 森 澤 多 美 子 静岡大学教育学部非常勤講師
 柳 澤 良 一 金沢学院大学文学部教授
 山 本 一 金沢大学教育学部教授
 〔近畿地区〕
 安 達 敬 子 京都府立大学文学部助教授
 飯 倉 洋 一 大阪大学大学院文学研究科助教授
 海 野 圭 介 大阪大学大学院文学研究科助手
 大 谷 俊 太 奈良女子大学大学院人間文化研究科助教授
 岡 本 聡 芦屋女子短期大学助教授

鈴 木 広 光 奈良女子大学文学部助教授
 曾 根 誠 一 花園大学文学部教授
 永 瀨 朋 枝 京都学園大学経済学部助教授
 西 田 正 宏 大阪女子大学人文学部講師
 野 口 隆 大阪学院大学経済学部講師
 藤 田 眞 一 関西大学文学部教授
 〔中国・四国地区〕
 會 田 実 四国大学文学部教授
 赤 松 万 里 鳴門教育大学学校教育学部教授
 石 川 一 県立広島女子大学国際文化学部教授
 大 伏 春 美 徳島文理大学文学部教授
 尾 崎 千 佳 山口大学人文学部講師
 川 崎 剛 志 就実女子大学文学部教授
 久 保 田 啓 一 広島大学大学院文学研究科教授
 倉 本 昭 梅光学院大学文学部助教授
 佐 々 木 亨 徳島文理大学文学部助教授
 下 田 祐 輔 徳島文理大学文学部助教授
 妹 尾 好 信 広島大学大学院文学研究科助教授
 田 中 則 雄 鳥根大学文学部助教授
 田 村 憲 治 愛媛大学文学部教授
 西 本 寮 子 県立広島女子大学国際文化学部助教授
 長 谷 川 泰 志 広島経済大学経済学部教授
 福 田 安 典 愛媛大学教育学部助教授
 古 瀬 雅 義 安田女子大学文学部助教授
 星 野 佳 之 ノートルダム清心女子大学文学部講師
 松 原 一 義 鳴門教育大学学校教育学部教授
 森 下 要 治 広島文教女子大学人文学部助教授
 山 本 秀 樹 岡山大学文学部助教授
 余 田 充 四国大学文学部教授

〔九州地区〕

- 今井 明 福岡女子大学文学部教授
 - 後小路 薫 別府大学文学部教授
 - 櫻澤 葉子 九州女子大学文学部助教授
 - 勝俣 隆 長崎大学教育学部教授
 - 川平 敏文 熊本県立大学文学部講師
 - 下野 孝文 県立長崎シーボルト大学国際情報学部助教授
 - 鈴木 元 熊本県立大学文学部助教授
 - 高橋 昌彦 純真女子短期大学教授
 - 田坂 憲二 福岡女子大学文学部教授
 - 徳岡 涼 国立療養所再春荘病院附看護学校非常勤講師
 - 中原 豊 長崎大学教育学部助教授
 - 長野 秀樹 長崎純心大学人文学部助教授
 - 横手 一彦 長崎総合科学大学共通教育センター助教授
 - 米谷 隆史 熊本県立大学文学部講師
- 国文学研究情報研究専門員**
 任期 平成14年4月1日～平成15年3月31日
- 浅田 徹 お茶の水女子大学教育学部助教授
 - 飯田 和明 筑波大学附属中学校教諭
 - 池田 三枝子 実践女子大学文学部助教授
 - 熊本 英人 駒澤大学仏教学部講師
 - 鈴木 豊 文京学院大学外国語学部教授
 - 堤 玄太 帝京大学文学部講師
 - 森野 崇 二松学舎大学文学部助教授
 - 山下 哲郎 明治大学政治経済学部非常勤講師
 - 湯浅 佳子 東京学芸大学教育学部講師
 - 青柳 隆志 東京成徳大学日本伝統文化学助教授
 - 小林 徹行 和洋女子大学文学部非常勤講師
 - 近藤 みゆき 実践女子大学文学部助教授
 - 近藤 泰弘 青山学院大学文学部教授
 - 佐々木 孝浩 慶應義塾大学附属研究所近文庫講師

- 中村 文 埼玉学園大学人間学部助教授
 - 二階堂 善弘 茨城大学人文学部助教授
 - 別府 節子 出光美術館学芸員
 - 宮崎 康充 宮内庁書陵部図書調査官
 - 湯浅 吉美 埼玉学園大学人間学部助教授
 - 横井 孝 実践女子大学文学部教授
 - 原本テキストデータベース監修員
- 任期 平成14年4月1日～平成15年3月31日**
- 内田 保廣 共立女子大学文学部教授
 - 金井 圭太郎 共立女子中学校教諭
 - 田野 慎二 広島国際大学医療福祉学部講師
 - 二又 淳 明治大学非常勤講師
 - 船戸 美智子 国立東京工業高等専門学校助教授
- 共同研究員**
 任期 平成14年4月1日～平成15年3月31日
- 課題名(人情本の所蔵調査)**
- 鈴木 圭一 川崎南高等学校教諭
 - 佐藤 悟 実践女子大学文学部教授
 - 高木 元 千葉大学文学部教授
 - 中村 勝則 尾道大学学術文化学部講師
 - 山本 誠 藤枝北高等学校教諭
 - 山田 裕子 青山学院高等部非常勤講師
 - 二又 淳 明治大学法学部非常勤講師
 - 木越 俊介 神戸大学大学院文学研究科博士課程
- 課題名(高乗勲氏旧蔵古典籍資料の解題目録作成のための研究)**
- 三村 晃功 京都光華女子大学文学部教授
 - 塩村 耕 名古屋大学大学院文学研究科助教授
 - 松田 豊子 元・京都光華女子大学文学部助手
- 課題名(談義本の基礎的研究)**

- 武藤 元昭 青山学院大学文学部教授
 - 石川 了 大妻女子大学文学部教授
 - 篠原 進 青山学院大学文学部教授
 - 山本 卓 関西大学文学部教授
 - 神谷 勝広 名古屋文理大学情報文化学部助教授
 - 宮尾 與男 元・玉川学園女子短期大学専任講師
 - 土屋 順子 大妻女子大学文学部非常勤講師
- 課題名(わが国における「三言二拍」受容の研究)**
- 小川 陽一 大東文化大学文学部教授
 - 山口 建治 神奈川大学外国語学部教授
 - 木越 治 金沢大学文学部教授
 - 稲田 篤信 東京都立大学人文学部教授
 - 福田 安典 愛媛大学教育学部助教授
 - 田中 則雄 島根大学法文学部助教授
 - 近衛 典子 駒澤大学文学部助教授
- 課題名(増補本「和歌一字抄」に関する研究情報の出版公開)**
- 井上 宗雄 立教大学名誉教授
 - 妹尾 好信 広島大学大学院文学研究科助教授
 - 古瀬 雅義 安田女子大学文学部助教授
 - 日比野 浩信 愛知大学短期大学部非常勤講師
 - 藏中 さやか 神戸大学大学院文学部助教授



人事異動 (平成14年3月～平成14年8月)

【教育系職員】

発令年月日	氏名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職
14. 3. 31	新藤 協三 高木 俊輔	東洋大学文学部教授 立正大学文学部教授 〔昇任〕	文献資料部教授 史料館教授
14. 4. 1	田淵 旬美子 加藤 昌嘉 大友 一雄 芥木 睦	文献資料部教授 整理閲覧部助教授 史料館教授 史料館助教授 〔採用〕	整理閲覧部助教授 大阪大学大学院文学研究科助手 史料館助教授 史料館助手
14. 4. 1	加藤 聖文 武藤 元昭 竹本 幹夫 原島 陽一 安野 一之 齋藤 悦正	史料館助手 文献資料部客員教授 (15.3.31まで) 研究情報部客員教授 (15.3.31まで) 史料館客員教授 (15.3.31まで) 研究情報部非常勤研究員 (15.3.31まで) 史料館非常勤研究員 (15.3.31まで) 〔併任等〕	(青山学院大学文学部教授) (早稲田大学文学部教授) (元文化女子大学文学部教授)
14. 4. 1	赤松 万里 樋口 大祐 田島 達也	文献資料部助教授 (14.9.30まで) 研究情報部助教授 (15.3.31まで) 史料館助教授 (15.3.31まで) 〔外国人研究員〕	(鳴門教育大学学校教育学部教授) (神戸大学文学部助教授) (北海道大学大学院文学研究科助教授)
14. 7. 1	ロバート ジョーナス	文献資料部客員教授 (14.12.31まで)	(フランス国立高等研究院教授)

【事務系職員】

発令年月日	氏名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職
14. 3. 31	竹之内重雄	〔定年退職〕	管理部庶務課専門職員
14. 4. 1	酒井 和博 田村 正夫 加藤 洋一 本多 静志 山本 和彦 伊藤 陽子 小室 史郎 佐野 一良 岩崎 光二 須賀 誠 篠崎 勲	〔転出〕 神戸大学研究協力調整官 東京学芸大学総務部人事課長 東京大学生産技術研究所総務課人事掛長 東京工業大学すずかけ台地区庶務課研究振興掛長 東京工業大学施設部企画課工事経理掛長 横浜国立大学附属図書館情報管理課総務係長 東京学芸大学経理部主計課管財係長 独立行政法人国立国語研究所会計課専門職員 東京大学医学部附属病院管理課用度第三掛主任 東京学芸大学教育学部第一事務係員 東京大学原子力研究総合センター会計掛員 〔転入〕	管理部庶務課長 整理閲覧部情報サービス室長 管理部庶務課庶務係長 管理部庶務課共同利用係長 管理部会計課総務係長 管理部会計課経理係長 管理部会計課用度係長 管理部会計課管財係管財主任 管理部会計課情報処理情報処理主任 管理部庶務課人事係員 管理部庶務課共同利用係員
14. 4. 1	佐藤 晃一 長坂 悦朗 岩村ときわ 荒井 久典 渡邊 隆之 入江 琢也 北村 滋 原 美和子 萩原 貴志 伊藤 健一 〔採用〕	管理部庶務課長 整理閲覧部情報サービス室長 管理部庶務課庶務係長 管理部庶務課共同利用係長 管理部会計課総務係長 管理部会計課経理係長 管理部会計課用度係長 管理部会計課管財係管財主任 管理部庶務課人事係員 管理部会計課情報処理係員 〔採用〕	福井医科大学総務部庶務課長 秋田工業高等専門学校会計課長 東京大学医科学研究所管理課庶務掛主任 東京大学医学部附属病院総務課教育研修掛主任 東京大学農学系学術国際課附属水産実験所事務主任 東京工業大学経理部主計課第1管財掛第1管財主任 東京学芸大学学務部学務課総務係主任 東京大学施設部建築課工事計画掛主任 東京学芸大学経理部主計課 宇都宮大学工学部
14. 4. 1	澁谷麻里子 竹之内重雄 〔館内異動〕	管理部庶務課共同利用係員 管理部庶務課	
14. 4. 1	増井ゆう子 和田 洋一 戸田加代子 喜多 妙子 林 宏保	整理閲覧部情報サービス室受入係員 整理閲覧部情報サービス室情報整備係員 整理閲覧部情報サービス室情報サービス係員 整理閲覧部情報サービス室参考普及係員 史料館兼務	整理閲覧部情報サービス室情報整備係員 整理閲覧部情報サービス室受入係員 整理閲覧部情報サービス室参考普及係員 整理閲覧部情報サービス室情報サービス係員

利用者へのお知らせ

◆館外からの複写申込について

大学等に所属している方は所属機関の図書館を通じて、当館所蔵資料の複写申込ができます。I.L.L.や複写料金徴収猶予などの制度により、迅速なサービスが受けられます。必要事項（資料名・請求記号・複写部分・複写方法など）を記入し、所属機関の図書館等にお申込ください。

大学等に所属していない方は、郵送またはFAXによる複写申込が可能です。資料複写申込書は、当館ホームページの「閲覧利用案内」から「資料複写申込書」の書式をダウンロードしてご使用ください。

FAX番号は〇三―三七八五―七二六六。郵送の場合は、情報サービス係宛にお申込ください。

URLは<http://www.nijl.ac.jp/>

◆古典講演シリーズ・特別展示図録のご案内

当館では、一年に数回、公開講演会を開催し、その講演録を「古典講演シリーズ」として刊行しています。これまで第八巻まで刊行

しました。また、年に数回開催の通常展示のほかに、特別展示を年一回開催しています。特別展示の開催に合わせて「特別展示図録」を刊行しています。最近刊行された「古典講演シリーズ」と「特別展示図録」は次のとおりです。

閲覧ご希望の方は、カウンターでお尋ねください。いずれの図書も所蔵資料となっております。また、購入ご希望の方は、出版社にお尋ねください。

- ① 「万葉集の諸問題」
 - ② 「詩人杉浦梅潭とその時代」
 - ③ 「商売繁昌―江戸文学と稼業―」
 - ④ 「歌謡―文学との交響―」
 - ⑤ 「伊勢と源氏―物語本文の受容―」
 - ⑥ 「軍記物語とその劇化―「平家物語」から「太閤記」まで―」
 - ⑦ 「芭蕉と元政」
 - ⑧ 「ジェンダーの生成―古今集から鏡花まで―」
- 〈特別展示図録〉
- 「奥の細道」の軌跡（臨川書店）〔平成十一年度開催〕
 - 「元政―弱者の奇蹟―」（ニチ

レン出版）〔平成十二年度開催〕

○ 「田安德川家伝来古典籍」（三弥井書店）〔平成十三年度開催〕

◆臨時休室について

年末年始の休室日は、十二月二十七日（金）から一月五日（日）までですが、平成十五年一月六日（月）を臨時休室とさせていただきます。平成十五年は一月七日（火）から閲覧業務を開始します。何卒よろしく願います。

なお、当館の開室及び休室日一

覧は、左記のカレンダーのとおりですが、当館ホームページの「閲覧利用案内」にも「閲覧室カレンダー

ター」があります。

◆利用案内

利用資格

学術研究のために当館の資料を必要とする人

利用手続

初めて利用される方は登録が必要です。身分証明書を持参のうえ、カウンターで登録申請を行ってください。「資料利用カード」を発行します。

閲覧時間

九時～十七時

文献複写受付時間

九時半～十五時半

開室及び休室日一覧
(14. 10. 1～15. 3. 31)

○印は休室日

10							11						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
⑥	7	8	9	10	11	⑫	③	④	5	6	7	8	⑨
⑬	⑭	15	16	17	18	⑮	⑩	11	12	13	14	15	⑯
⑳	21	22	23	24	25	㉑	㉒	17	18	19	20	21	㉓
㉔	28	29	30	㉕			㉖	25	26	27	28	㉗	㉘
12							1						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
①	2	3	4	5	6	⑦	①	2	3	4	5	6	⑦
⑧	9	10	11	12	13	⑭	⑧	9	10	11	12	13	⑭
⑮	16	17	18	19	20	㉑	⑮	16	17	18	19	20	㉑
㉒	23	24	25	26	㉓	㉔	㉒	23	24	25	26	㉓	㉔
㉕	28	29	30	㉖			㉕	27	28	29	30	㉖	㉗
2							3						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
②	3	4	5	6	7	⑧	②	3	4	5	6	7	⑧
⑨	10	11	12	13	14	⑮	⑨	10	11	12	13	14	⑮
⑯	17	18	19	20	21	㉑	⑯	17	18	19	20	21	㉑
㉒	24	25	26	27	㉓	㉔	㉒	24	25	26	27	㉓	㉔

平成14年度 秋・冬季学会

①事務局 ②開催日 ③会場

(プログラム等詳細は当館ホームページ参照)

- 歌舞伎学会 ①〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内 03-3203-4141内線71-5936 (月曜午後のみ) ②12月7・8日 ③青山学院大学
- 訓点語学会 ①〒155-0032 世田谷区代沢1-20-10 fax03-3487-4891 ②11月8日 ③徳島大学
- 国語学会 ①〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学文学部国語研究室内 03-5841-3813 事務取扱 〒113-0033 文京区本郷1-13-7 日吉ハイツ404 03-5802-0615 ②11月9・10日 ③徳島大学
- 上代文学会 ①〒142-8602 品川区大崎4-2-16 立正大学文学部906 (近藤) 研究室内 03-5487-3286 ②11月16・17日 ③武蔵野女子大学
- 昭和文学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町2-2-5 笠間書院内 03-3295-1331 ②11月16・17日 ③仏教大学
- 全国国語教育学会 ①〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101 鳥取大学教育地域科学部内 0857-31-5083 ②10月19・20日 ③長野県勤労会館
- 全国国語国文学会 ①〒101-0064 千代田区猿楽町1-3-1 (株)おうふう気付 03-3294-0857 ②11月30日・12月1日 ③東北大学
- 中古文学会 ①〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1 明治大学文学部日向研究室内 03-3296-2194 ②10月12・13日 ③相愛大学
- 中世文学会 ①〒108-8345 東京都港区三田2-15-45 慶應義塾大学文学部石川透研究室内 03-5427-1178 ②10月26～28日 ③中京大学
- 日本演劇学会 ①〒560-8532 豊中市待兼山町1-5 大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室 06-6850-6111 ②12月7・8日 ③平安会館 (京都)
- 日本音声学会 ①〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 日本学会事務センター 03-5814-5801 ②9月28・29日 ③東京女子大学
- 日本歌謡学会 ①〒340-0042 草加市学園町1-1 獨協大学外国語学部言語文化学科 飯島一彦研究室内 048-943-1039 ②10月5・6日 ③鹿児島県立歴史資料センター黎明館 (鹿児島市)
- 日本近世文学会 ①〒102-8357 千代田区三番町12 大妻女子大学文学部江本裕研究室内 03-5275-6000 ②11月2・3日 ③長崎大学
- 日本近代文学会 ①〒176-0024 練馬区中村2-20-2 03-6761-6868 事務取扱 〒113-8622 文京区本駒込5-16-9 学会センターC21 日本学会事務センター内 03-5814-5810 ②10月26・27日 ③日本女子大学
- 日本言語学会 ①〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 075-415-3661 ②11月3・4日 ③東北学院大学
- 日本語教育学会 ①〒101-0065 千代田区西神田2-4-1 東方学会新館 03-3262-4291 ②10月12・13日 ③高知大学
- 日本児童文学学会 ①〒484-8503 犬山市字内久保61-1 名古屋経済大学短期大学部川勝研究室内 0568-67-0616(代) ②10月26・27日 ③明星大学
- 日本社会文学会 ①〒840-8502 佐賀市本庄1 佐賀大学文化教育学部日本・アジア文化講座 0952-28-8221 ②10月19・20日 ③高野山大学
- 日本文学協会 ①〒170-0005 豊島区南大塚2-17-10 03-3941-2740 ②11月30日・12月1日 ③清泉女子大学
- 日本文学風土学会 ①〒277-8585 東葛飾郡沼南町大井2590 二松学舎大学文学部 04-7191-8573 ②11月9・10日 ③中京大学
- 日本文体論学会 ①〒110-0004 台東区下谷1-5-34 三修社内 03-3842-1711 ②11月30日・12月1日 ③関西外国語大学短期大学部
- 日本方言研究会 ①連絡先1 〒192-0397 八王子市南大沢1-1 東京都立大学国語研究室内日本方言研究会幹事 0426-77-2135 連絡先2 〒115-8620 北区西ヶ丘3-9-14 国立国語研究所気付日本方言研究会幹事 03-5993-7630 ②11月8日 ③徳島大学
- 俳文学会 ①〒184-8501 小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学教育学部言語文学第一学科嶋中道則研究室内 042-329-7243 ②10月19・20日 ③青山学院大学
- 萬葉学会 ①〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪市立大学文学部国語・国文学研究室内 06-6605-2413, 2414 ②10月12～15日 ③弘前大学
- 紫式部学会 ①〒230-0063 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学文学部日本文学科研究室内 045-581-1001(代) ②12月7日 ③学習院大学
- 和歌文学会 ①〒156-8550 世田谷区桜上水3-25-40 日本大学文理学部国文学研究室内 03-5317-9706 fax03-5317-9219 ②10月26～28日 ③日本大学文理学部
- 和漢比較文学会 ①〒102-8160 千代田区富士見2-17-1 法政大学文学部天野紀代子研究室内 03-3264-9479 ②9月28～30日 ③太宰府天満宮